日本が今世界とウクライナに向けて発信すべきは、1945年に立ち返って、あの時どんな人権の蹂躙が起こっているのか、どういう風な道をたどってきたからああいうことが起こってしまったのかという歴史に戻ってこの理想を語ることであって、これがすごく現実的な、これに頼るしかない、逃げ道ここしかないよというせめぎあいだと、というところを考えなければならないと思っている。このように語られました。　（世話人　奥野泰孝）

〈アンケートから〉

＊大国にはさまれたウクライナ侵攻の背景がとてもよく理解できた。
＊沖縄にかかる問題、日本の政治が西側に引きずられ過ぎている問題が分かった。
＊日本国憲法、特に「前文」の意義をかみしめ、周りにも知ってもらえるよう努めたい。
＊西欧、東欧の歴史と日本の立ち位置などよくわかった。
＊沖縄への差別に心を向けたいと思う。
＊戦争でなく外交で人類が生きられるように、とても考えさせられた。
＊どこの国も、負の歴史を認識する事が重要。
＊「メディアを自分達で作っていく」、大切ですね。
＊知らなかった事があまりにも多かった。
＊ウクライナの歴史を知らず、単純にテレビニュースに流されていた。
＊現代のウクライナだけでなく、世界の国の置かれた状況にも注意しなければならないこともよく理解できた。

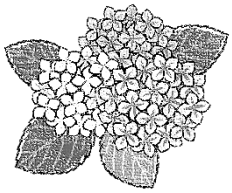
※会場で寄せられましたウクライナ難民支援カンパ 21,117 円は、毎日新聞大阪社会事業団に送金しました。ご協力有り難うございました。　（事務局）

早乙女勝元さん死去

作家で東京大空襲資料センター初代館長を務めた早乙女勝元さんが5月10日、亡くなりました。東京大空襲を12歳の時に生き延びた体験を元に、戦争と平和について伝え続けてこられました。

芦屋「九条の会」発足の記念講演に来ていただき、「一人一人が平和の伝書鳩になろう」と訴えられました。芦屋「九条の会」としても、早乙女さんの遺志を受け継いでいきたいと思います。　（事務局）

戦争をしない国であり続けたい

「手と足をもいだ丸太にしてかへし」「万歳とあげて行った手を大陸において来た」「胎内の動き知るころ骨（こつ）がつき」。鶴彬（つるあきら）は日本が戦争へと突き進む中、侵略戦争と植民地支配の生み出す不条理を暴き出し、反戦と貧困を川柳にしました。彼は治安維持法違反で特高警察に逮捕され1938年に獄死、29才でした。鶴彬の川柳に初めて出会った時、私は苦しくて息が止まりそうな衝撃を受けました。いま再び、彼を思い起こしています。人が、心が、街が、文化が、環境が容赦なく壊されていく･･･リアルタイムに届くウクライナからの映像。

ロシアのウクライナ侵略に乗じて、「軍事費GDP比2%以上」「核には核」「敵基地攻撃能力（「反撃能力」に言い換え）」などが主張されるようになっています。唯一の戦争被爆国である日本が、核兵器を使用し広島・長崎をくり返えそうとする議論は断じて許されません。また、「力対力」が軍事の際限なき悪循環を作り出すことは明白です。戦争にしないための外交努力こそが重要です。言い尽くされない犠牲の上に手に入れた憲法9条を活かし、アジアで友好的な立ち位置であり続けたいと思います。　（東芦屋町　柳）